

I 平成 22 年度 事業 報告

第 1 事業の概要

平成 22 年度は、ボランティア団体や市民団体を主体とした国際交流・協力等の活動支援、青少年交流や国際文化フェスティバル等の交流事業を引き続き実施するとともに平成 23 年度からの基本計画として多文化共生マスタープランを策定した。

また、財団公益法人申請に向け、最初の評議員の選任方法を決定するなど、具体的な事務手続きを開始した。

第 2 実施事業の内容

1 自主事業

(1) 多文化理解推進事業

ア 交流サロン

市民と外国人市民が気軽にふれあい、情報交換や国際化の理解を深めることができる場を設け、相互の交流の促進を図った。

スピーチ大会、異文化交流サロンについては、ボランティアを主体として企画・運営を行った。

内 容	開 催 日	テ ー マ	参 加 者
親子三代夏祭りへの参加	8 月 22 日	PAP チーム「千葉踊り」	計 106 人 (うち外国人 51 人)
日本語スピーチ大会と交流会	10 月 2 日	発表者各自で自由設定	計 148 人 (うち外国人 38 人)
異文化交流サロン	4 月 5 日 ～4 月 11 日	異文化交流 ART 展	計 1,512 人
	6 月 19 日	和装小物作り	計 21 人 (うち外国人 9 人)
	12 月 5 日	千葉市外国人留学生 交流員主催交流会	計 97 人 (うち外国人 14 人)

イ 語学講座

国際理解の向上とボランティア活動の一助とするためにボランティア及び賛助会員を対象に語学講座を実施した。

内 容	受講時間	開催数	講師	受講者
英語サロン (前期)	2 時間 × 10 日	1 回	中西-スタニス 慧理果氏	21 人
英語サロン (後期)	2 時間 × 10 日	2 回	中西-スタニス 慧理果氏	43 人
はじめての中国語講座	2 時間 × 20 日	1 回	律 津 氏	13 人
ステップアップ中国語講座	2 時間 × 10 日	1 回	律 津 氏	10 人
はじめての韓国語講座	2 時間 × 20 日	1 回	姜 龍熙 氏	10 人

ウ 青少年交流（市補助）

姉妹都市の市民相互の交流を促進し、次世代を担う青少年がお互いの国の文化・歴史・習慣等について理解を深めるため、引き続き青少年交流事業を実施した。

内 容	期 間	参 加 者
ノースバンクーバー市 (41回目)	(受入) 8月10日～8月24日 (派遣) 8月4日～8月19日	高校生4人・引率者1人 高校生4人・引率者1人
ヒューストン市(28回目)	(受入) 6月20日～7月4日	中学生4人・引率者1人
モントルー市(13回目)	(派遣) 7月30日～8月13日	青少年3人・引率者1人

エ 千葉市国際文化フェスティバル

「国際都市・千葉市」を内外にアピールするとともに、市民の国際理解を深めるため、官民一体となった実行委員会を組織し、姉妹友好都市のパラグアイ共和国・アスンシオン市から文化・芸術団体を招いて市民に紹介した。併せて国際理解講座として、千葉市立本町小学校において国際理解を深めてもらうための啓発事業を実施した。

内 容	開 催 日	会 場	参 加 者
プレイベント（ミニ公演）	10月16日	センシティエントランス	約110人
パラグアイ共和国アスンシオン市から文化芸術団（楽器演奏・歌）を招き、市民の音楽団体とコラボレーション演奏会を開催	10月17日	市民会館大ホール	757人
国際理解講座	10月18日	千葉市立本町小学校	290人

オ 多文化共生マスタープラン

平成23年度からの5年間の基本計画として多文化共生マスタープランを策定し、事業の体系を整備した。

(2) 市民活動支援事業

ア 国際交流ボランティア登録・斡旋

地域に根差した国際交流及び多文化共生の推進を図るため、通訳、日本語学習支援等のボランティア登録及び斡旋を行った。

内 容	登 録 者	斡 旋
通訳	452人	14人
災害時語学	124人	1人
翻訳	321人	0人
ホームステイ	97家庭	0家庭
ホームビジット	176家庭	22家庭
日本語学習支援	820人	439人
学校派遣	105人	2人
国際交流支援	404人	96人
文化紹介	163人	7人
合計	2,662人、家庭	581人、家庭

イ ボランティア研修

(ア) 日本語学習支援ボランティア講座

外国人市民に対し、日常生活に必要な日本語の学習を支援するボランティアの育成を図るための講座を実施した。

講座	内容	受講時間	開催数	講師	受講者
入門	これから日本語学習支援を始めるボランティアのための基礎的な予備知識の習得	2時間×1日	4回	松本明子氏	41人
養成	具体的な日本語学習支援の方法を学ぶボランティアのための講座	3時間×16日	2回	松本明子氏	59人
実践	日本語学習支援経験者の資質向上を図るための講座	2.5時間×10日	1回	伊藤三枝子氏	16人

(イ) 災害時通訳ボランティア研修等

災害時における外国人市民とのコミュニケーション能力を有するボランティアを育成するための研修を実施した。

内容	受講時間	開催数	講師	受講者
災害時通訳ボランティア研修	4時間×4日	1回	東京外国語大学世界言語社会教育センター特任講師 内藤稔氏 フリーランス通訳者・翻訳者 中島直美氏	18人

(ウ) 日本語ボランティア交流会

日本語学習支援ボランティア相互の情報交換や交流の場を提供するとともに、日本語学習支援に関する講師を招き、日本語学習に関する講座を実施した。

内容	開催日	講師	参加者
在留資格の最初歩	7月12日	(財)入管協会 専務理事 佐藤修	32人
ボランティア同士の情報交換 テーマ：学習者の悩みや相談を受けたとき どうしていますか？	2月16日	—	40人

(エ) ボランティアガイダンス

日本語学習支援ボランティアの新規登録者の拡大を図るため、説明会を開催した。

内容	開催日	参加者
・外国人市民の現状説明と協会ボランティア制度の概要 ・ボランティア体験談の紹介(3名) ・日本語学習支援活動の見学	7月10日	23人

ウ 国際交流・国際協力団体活動助成（市補助）

内 容	助成団体数
民間ボランティア団体の自主的な国際交流・国際協力活動の促進を図るため、市民団体の活動事業に要する経費の一部について助成	16団体

エ ちば市国際ふれあいフェスティバル支援

外国人市民と市民の交流の場を創出するとともに、団体相互の連携を図るため、「ちば市国際ふれあいフェスティバル」を開催した。平成21年度より運営協議会を組織化し、協議会による企画・運営を行い、協会は事務局として支援を行った。

内 容	開催日	場 所	参加団体	参加者
ステージ発表、パネル展示による活動紹介、バザー等	2月20日	きぼーる	国際交流団体 35団体	2,000人

オ 日本語教室ネットワーク

市内の日本語教室30か所を協会のホームページに掲載し紹介する等、ネットワーク化を図った。

内 容	各区活動把握団体数
日本語教室を実施している団体	中央区8 花見川区4 稲毛区6 緑区3 美浜区9 若葉区0 計30団体

(3) 外国人市民支援事業

ア 外国人生活相談

外国人市民に対し、言語や習慣の違いから生じる日常生活の問題を解決するための窓口を設け、相談の受付及び情報提供を行った。また、電話の三者間通話機能を利用しての電話通訳サービスや市役所コールセンターへの多言語対応等の協力を行った。

内 容	言 語	方 法	件 数
外国人市民に対する相談	英語、中国語、韓国語、 スペイン語	相談窓口、電話、 メール等	1,651件

イ 外国人法律相談

外国人市民が直面する法律的課題を解決するため、千葉県弁護士会の協力により無料法律相談を実施した。

内 容	回 数	会 場	相 談 者
日常生活に関する法律相談	6回 (奇数月)	国際交流プラザ会議室	28人(16カ国)

ウ 留学生学習奨励（市補助）

市内大学に通う本市在住の私費留学生の学習支援及び、多文化共生社会の実現に寄与する留学生社会のキーパーソンの育成を目的に、留学生交流事業を実施した。

内 容	対 象	交 付 先
留学生交流員 (交流員の任命、奨学金 7万5千円の支給)	市内在住・在学の私費留学生 (大学から推薦を受けた者)	市内4大学 4人

エ 災害時における外国人市民支援

当協会に登録している災害時語学ボランティア及び地域連携コーディネーターが、実際の災害時に活躍できるよう千葉県主催の防災訓練(9月5日)に参加した。

また、千葉中央ツインビル主催の防災訓練(3月2日)に日本語学習者、ボランティア及び地域連携コーディネーターが参加した。(避難訓練・消火器訓練)

なお、災害時に関東地域国際化協会と連携を図ることを目的に「多言語翻訳シミュレーション」(他協会と連携し災害時における翻訳訓練)を実施した。

これに加え、あらゆる機会に市で備蓄している非常食に各国語での説明書を貼付して配布し、個人での備蓄を呼びかけた。

オ 外国人児童支援（CLAIR 補助）

地域の人的資源を生かして、小中学校に通う外国人児童の支援体制の構築をめざし、千葉市立鶴沢小学校をモデル校とし、千葉大学新倉涼子教授の協力のもと千葉市及び千葉市教育委員会とも連携し実施した。

内 容	対 象	期 間
日本語指導及び教科指導	児童4名	2010年10月27日～2011年3月11日

(4) 情報収集・提供事業

ア ホームページ運営

協会の事業内容や外国人市民の生活に必要な情報について、インターネットを通じて幅広く発信した。また、ブログを新設し、情報提供の拡大を図った。特に、震災の混乱時にやさしい日本語を中心とした計画停電や水道水の汚染状況の情報を常時、提供した。

内 容	時 期	対 象
協会事業、生活情報、イベント情報等を提供 (日本語・英語・中国語・韓国語・スペイン語)	随時更新	市民、外国人市民等

イ 協会情報誌発行

協会事業の案内及び報告、国際交流・理解等に関する知識及び意識の向上を図るため、市民向けに日本語情報誌を発行した。

内 容	発 行	部 数	配 布 先
協会情報誌「ふれあい」の発行（日本語） 64～67号（6ページ）	6月、9月、12月、3月 （年4回）	各3,000部	市民、賛助会員、 市内公共施設等

エ 多言語情報誌（生活情報誌発行）

長期滞在している外国人市民に対し、市民生活に密着した生活情報である市政だより等の有益な情報を外国語に翻訳し、ホームページや各区外国人登録窓口、日本語教室等を通して、情報を提供した。

内 容	発 行	部数	配布先
英 語	月1回（12回）	各100部	ホームページ 各区窓口 日本語教室 市内大学等
中国語	月1回（12回）	各200部	
やさしい日本語	月1回（12回）	各150部	

オ 協会広報キャンペーン

次のイベント等、協会、市及び他団体主催の事業を通じて協会事業の紹介などPRを積極的に行い、賛助会員やボランティアの拡充を図った。

内 容	賛助会員 ボランティア登録状況	参加 ・実施イベント
賛助会員の行政書士による無料相談（8人）、 メキシコ民族衣装体験・写真（10人）、 パラグアイのお菓子紹介（100個）・ 災害用品啓発用アルファ米配布（400食）・ ティッシュ（1,000個）を配布 ブースでの協会事業紹介	賛助会員加入 （18人内外国人9人）、 ボランティア登録 （19人）	美浜区民 フェスティバル 参加 10月3日
事務局長挨拶時に協会事業の紹介をし、賛助 会員を募った。	賛助会員加入（16人）	千葉県文化 フェスティバル 10月17日
イベントの合間に協会事業の紹介をし、賛助 会員を募った。 災害用品啓発用アルファ米配布（97食）	賛助会員加入（7人）	留学生交流員主 催交流会 12月5日

カ 情報ラウンジ

外国語の雑誌・新聞や国際交流・国際協力に関する図書等を整備するとともに情報コーナーにおいて協会PRを実施した。また、インターネットコーナーにおいて引き続きパソコンを設置し、自由に情報収集できる場の提供を行った。

内 容	時 期	場 所
国際交流・国際協力などに関する関係図書等の整備（定期購読紙 19種）	通年	国際交流プラザ情報ラウンジ
情報収集用パソコン		

2 受託事業

(1) 千葉市から委託を受けた国際交流事業の実施

ア 千葉市国際交流プラザ運営業務

内	容
国際交流の場の提供や、外国人市民に対する相談、情報の提供などを業務としている「千葉市国際交流プラザ」の運営業務を受託	

イ 地域連携コーディネーター事業

内	容
国の「ふるさと雇用再生特別交付金事業」に基づき千葉市が実施する事業を受託。平成21年8月より非常勤嘱託職員として採用した地域連携コーディネーターを引き続き雇用し、地域と連携した在住外国人支援事業を展開することを目指して、養成している。	

第3 賛助会員

会員期間を支払日を起点としたこと、新たに学生会員及び外国人会員枠を設け、半年で1,000円での入会を可能としたことや積極的に勧誘活動を行ったことなどから、前年度に比べ、会費収入を約20%増加させることができた。

区 分	合 計	内訳1 (日本人・外国人)		内訳2 (一般・学生)		内訳3 (金額)	
		日本人	外国人	一般	学生	2,000円以上	1,000円
個 人	828名	597名	231名	一般	593名	2,000円以上	593名
				学生	4名	1,000円	2名
		外国人 市 民	113名	2,000円	2名		
				1,000円	61名		
			118名	2,000円	52名		
				1,000円	108名		
2,000円	10名						
法人・団体	80団体	(1口10,000円以上)					